

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
東海医療工学専門学校	平成4年4月1日	小足信雄	〒470-0203 愛知県みよし市三好丘旭3-1-3 (電話) 0561-36-3303																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人セムイ学園	平成4年4月1日	小足信雄	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-7-2 (電話) 052-551-1233																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	救急救命科	平成10年文部科学省 告示第179号	-																						
学科の目的	本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、必要な専門教育を施し、社会に貢献しうる有能な人材として、救急救命士を育成することを目的とする。																									
認定年月日	平成30年2月28日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
第2回 令和2 年	227時間	1092時間	0時間	1125時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
100人	92人	0人	5人	26人	31人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績考査は、科目試験・卒業試験及び平素の成績、性を斟酌して行う																						
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■春季:3月25日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件	所定の科目を履修し、科目試験又は卒業試験(追試及び再試験を含む。)に合格しなければ進級または卒業することができない。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者に対しては、進級に関わる授業時間を超えない場合は補講を行い、進級に関わる者は休学とし原級に留めて翌年度再履修させる。		課外活動	■課外活動の種類 東海救急医療活動研究クラブ ■サークル活動: 有																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成31年度卒業生) 消防本部、病院 ■就職指導内容 キャリア講習を実施、面接指導、面接時の服装チェックを行っている ■卒業者数 45 人 ■就職希望者数 45 人 ■就職者数 33 人 ■就職率 : 73.3 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73.3 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 31 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急救命士</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	救急救命士	②	44人	38人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
救急救命士	②	44人	38人																							
0	0	0	0																							
0	0	0	0																							
0	0	0	0																							
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 平成31年4月1日時点において、在学者93名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者88名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学的主要原因 進路変更、病氣 ■中退防止・中退者支援のための取組 学力不足者には授業後に補習を実施。欠席が目立つ生徒、学力不振者は保護者に連絡の上、面談指導を行っている。		■中退率 5.4 %																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ひとり親家庭奨学金:学園が定める所得基準未滿を対象に、入学後、在学年度ごと10万円の支給(給付型)。利子補給奨学金:教育ローン利用者で、学園が定める所得基準未滿を対象に納入された学費に対する利子を奨学金として支給(給付型)、上限年6万円、金利上限3.5% ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	http://www.tokai-med.ac.jp/kougaku/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業に必要な実践的かつ専門的な能力及び救命医療現場において即戦力となる能力を育成するため、病院、業界団体等との密接な連携を通じ、実践的な専門教育の確保に組織的に取り組み、病院等からの要望、意見を活用し、学校が主体的に教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はセムイ学園運営指針において校長レベルの委員会に位置付けられている。教育課程の編成は先ず、学科教員の起案により学科会議で協議した結果を教育編成委員会で審議し校長が決裁する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
小足信雄	東海医療工学専門学校	H30.4.1～R3.3.31	
侘美好昭	東海医療工学専門学校	H31.4.1～R4.3.31	②
森 茂紀	東海医療工学専門学校	H31.4.1～R4.3.31	③
大野健二	東海医療工学専門学校	H31.4.1～R4.3.31	
武山直志	愛知医科大学病院 救命救急科 教授	H31.4.1～R4.3.31	②
竹内亮太	岡崎市民病院 看護局 集中治療センター	H30.7.1～R3.6.30	③
柴尾隆行	東海医療工学専門学校	H31.4.1～R4.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和1年9月14日 11:00～12:00

第2回 令和2年4月24日 書面会議(令和2年3月14日開催延期による変更分)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

救急救命士の業務場所・範囲の拡大に期待が寄せられており、職域拡大に応じた教育カリキュラムの充実が必要であるとの意見に基づき、医療機関に従事している救急救命士等を非常勤講師として招聘し、カリキュラムの再編を進めていく。また、教育課程の全体的な改正は令和4年4月改正施行を目標として検討を進めていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

救急救命に関する臨床的で実践的な実習を行うために、救急救命の関連の病院・企業から当該病院・企業に所属する臨床経験5年以上の救急救命士又は看護師等を講師として派遣し、校内の教室、設備等を活用した指導などの協力を得られる病院・企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等の講師が事前に担当教員と打ち合わせを行い、実習の内容、学修成果の達成度評価指標等について定める。企業等の講師の臨床的な視点で授業を展開する。授業終了後に担当教員と意見交換をし、他の授業との関連性や学生理解度などを確認し、生徒の学習状況によっては学習支援をする。実習終了時には講師による生徒の学修結果の評価を踏まえ担当教員が成績評価を行う。なお、なお、年間授業時間数90時間のうち、45時間分は、彩 株式会社からの講師派遣による実習として実施する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
シミュレーション実習Ⅱ	救急現場における規律・安全管理を学習する。 BLSヘルスケアプロバイダーに基づいた心肺蘇生法を適切に実施できる能力を学習する。	彩 株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園が定める教員研修規程に基づき、救命医療現場の最新の知識及び技術・技能の修得と生徒に対する指導力の向上を方針とし、企業等との連携により、組織的な研修を行っている。
また、教員の専門知識、技術の向上のために救急医学に関する学会や救急救命士教育施設協議会の研修会への参加を促している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国救急救命士教育施設協議会(JESA) 総会・教育部会」(連携企業等: 全国救急救命士教育施設協議会)
期間: 令和元年8月20日～21日
対象: 初任者・新規採用者、教職5年以上経験者
内容: 救急救命医療の重要性に鑑み、救急救命士教育の質の向上と救急救命医療の発展を図り、国民全体の保健・医療及び福祉に寄与することを目的とする教育セミナー

研修名「第28回全国救急隊員シンポジウム」(連携企業等: 一般財団法人 救急振興財団)

期間: 令和2年1月30日～31日
対象: 初任者・新規採用者、教職5年以上経験者・それ以上経験者
内容: 我が国の救急体制の一層の振興を図る一助として、全国の救急隊員等を対象とした実務的観点からの研究発表や最新の医学知識等を学ぶことを目的とする教育セミナー

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「シミュレーション評価研修会」(連携企業等: 全国救急救命士教育施設協議会)

期間: 令和元年11月9日
対象: 初任者・新規採用者、教職5年以上経験者
内容: 学生選手権大会のブース運営および出場選手の評価方法などを学び、日頃のシミュレーション教育に反映していくことを目的とする教育セミナー

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国救急救命士教育施設協議会(JESA) 総会・教育部会」(連携企業等: 全国救急救命士教育施設協議会)
期間: 令和2年8月26日、27日
対象: 初任者・新規採用者、教職5年以上経験者
内容: 救急救命医療の重要性に鑑み、救急救命士教育の質の向上と救急救命医療の発展を図り、国民全体の保健・医療及び福祉に寄与することを目的とする教育セミナー

研修名「PEMECコース」(連携企業等: 全国救急救命士教育施設協議会)

期間: 令和2年8月28日
対象: 初任者・新規採用者、教職5年以上経験者
内容: 救急隊員による疾病の観察・処置の標準化教育コース。救急救命士におけるシミュレーション教育のため資格取得を試みる。

研修名「第29回全国救急隊員シンポジウム」(連携企業等:一般財団法人 救急振興財団)

期間:令和3年1月28日、29日

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:我が国の救急体制の一層の振興を図る一助として、全国の救急隊員等を対象とした実務的観点からの研究発表や最新の医学知識等を学ぶことを目的とする教育セミナー

研修名「第48回日本救急医学会総会・学術集会」(連携企業等:日本救急医学会)

期間:令和2年11月18日～20日

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:救急医学の進歩を図り、救急医学の普及に貢献することを目的とする教育セミナー。最新の救急医学情報を学生教育に反映させる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会」(連携企業等:一般社団法人 日本臨床救急学会)

期間:令和2年8月26日～28日

対象:初任者・新規採用者、教職5年以上経験者

内容:日本臨床救急学会は、臨床現場における救急医学の進歩を図り、救急医学の普及に貢献することを目的とするセミナー。最新の救急医学情報を学生教育に反映させる。今年度テーマ:「病院前医療における多職種連携の多様性と将来像」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と学校関係者が学校運営の現状と課題について共通理解を持ち協力することによって、教育活動その他学校運営の改善が適切に行われるようにすることを目的として学校関係者評価を実施することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1.学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか 2.理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか 3.理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか 4.理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか
(2)学校運営	1.人事、給与に関する規程等は整備されているか。 2.学校の目的・目標を達成するための事業計画が定められており、学校は事業計画に沿って運営されているか 3.運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 4.教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 5.情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	1.教育目標・育成人材像は明確になっているか 2.職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 3.教育課程は、適切に編成されているか(体系的) 4.各科目はカリキュラムの中で適当な位置付けをされているか 5.成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 6.進級、卒業の基準は明確になっているか 7.教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか 8.授業評価の実施・評価体制はあるか 9.授業評価が授業改善に活かされているか 10.国家試験等の指導体制は確立されているか
(4)学修成果	1.就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 2.中退率の低減が図られているか 3.国家試験対策を推進し資格取得率の向上が図られたか

(5) 学生支援	1.進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 2.父母との連絡は密に行われているか(特に未成年の場合) 3.卒業生への支援体制はあるか 4.学生の生活指導・勉学指導がきちんと行われているか
(6) 教育環境	1.設備、機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2.防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	1.高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか 2.学生募集活動は、適正に行われているか 3.学生募集において資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか 4.学生納付金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	1.中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 2.予算・収支計画は有効かつ妥当なものか 3.財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	1.法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2.自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 3.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 2.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員の評価や提言を受け、多様化する医療ニーズに対応すべく、学科の要望に基づき、教育資器材や教育機器の購入をし、教育環境の整備を進めている。
学生が望む就職先や国家試験合格率の向上を図るため、「放課後補習」などの個別教育を行い、個々の成績の向上に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
竹内亮太	岡崎市民病院 看護局 集中治療センター	H30.7.1～R3.6.30	企業等委員
野々垣常正	元金城学院大学薬学部教授	H30.11.1～R3.10.31	学識経験者
鎌倉朋史	学校法人セムイ学園	R2.7.1～R5.6.30	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.tokai-med.ac.jp/kougaku/shokai/koukai/>

公表時期: 10月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学の教育活動や学校運営の状況に関する情報提供として、学校自己点検評価及び学校関係者評価の結果及び今後の改善方策等を公表・説明を行い、企業等との協力体制を整え、連携を推進する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1.学校の教育方針、特色 2.学校の沿革、歴史 3.校長名、所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	1.入学者に関する受け入れ方針、収容定員 2.カリキュラム 3.国家資格資格取得の実績
(3) 教職員	1.教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	1.就職支援等への取組支援 2.臨床実習の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	1.学校行事への取組状況 2.課外活動
(6) 学生の生活支援	1.学生支援への取組状況(学生相談)
(7) 学生納付金・修学支援	1.学生納付金の取扱 2.学内・学外奨学金制度
(8) 学校の財務	1.事業活動収支計算書
(9) 学校評価	1.学校自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.tokai-med.ac.jp/kougaku/shokai/koukai/>

授業科目等の概要

(医療専門専門課程 救急救命科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			化学	化学の基礎を学び、救急医療・医学との関連を理解する。	1前	30	1	○			○			○	
○			生物学	生物学の基礎を学び、解剖学、生理学、生化学の基本として理解する。	1前	30	1	○			○			○	
○			情報科学	情報機器の基本を理解して操作ができるようにする。プレゼンテーションの基本的作成方法を学習し、実際の現場で役立つ知識を得る。	1前	30	1	○			○			○	
○			心理学	臨床心理、傷病者心理の基礎が理解できるようにする。	1後	16	1	○			○			○	
○			英語	基礎的な英会話を実践的な学習を通して理解する。	1後	30	1	○			○			○	
○			体育	医療従事者として健全な心身を育成する	1後	30	1	○			○			○	
○			解剖学・生理学Ⅰ	人体の構造と機能及び生理機能に関する知識を系統的に理解する。	1前	75	3	○			○			○	
○			解剖学・生理学Ⅱ	人体の構造と機能のうち呼吸系、循環系、消化器系、泌尿系について系統的に理解する。	1前	30	1	○			○			○	
○			生化学	生化学物質と代謝について学び、疾病と生化学との関連を理解する。	1前	30	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門専門課程 救急救命科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			薬理学	薬物の作用や動態を通じて薬剤投与に関する理解を深める。	2前	30	1	○			○		○		
○			病理学・法医学	病因や病変、障害、損傷、炎症、腫瘍といった疾病の基本を理解する。死因や病変、障害、損傷、炎症、腫瘍といった疾病の基本を理解する。	1前	50	2	○			○		○		
○			保健医療制度・社会保障と社会福祉	我が国の公衆衛生、社会保障や社会福祉について理解する。	1後	45	3	○			○		○		
○			救急医学概論	生命倫理について知識を身につけ、救急救命士の役割、責任をよく認識し、それに必要な法律・救急医療体制・病院前救護体制などを理解する。さらに災害医療についても対応できる知識を身につける。	1前	40	2	○			○		○		
○			観察と評価	救急現場で遭遇する傷病者を適切に評価し、適切な応急処置と搬送が出来るようになることが目標である。	1後	30	1	○			○		○		
○			救急処置・搬送	救急救命士が現場で行う処置の基本技術の理論と実際を理解する。また特定行為の根拠を学び、観察・処置の基本技術の理論と実際を理解する。	1前	30	1	○			○		○		
○			検査/放射線医学	患者が示す異常の原因を発見する重要な手段である生体検査、検体検査の種類とその意味を理解する。救急救命士として放射能・放射線の知識・対処を身につける。	1後	20	1	○			○		○		
○			感染/安全管理	感染症の種類、分類を学び、その原因となる病原微生物に対する消毒・滅菌法を学習する。傷病者の搬送時における感染予防法を習得して、救急活動における安全管理技術を学ぶ。	1後	30	1	○			○		○		
○			心肺停止	患者が示す異常の原因を発見する重要な手段である生体検査、検体検査の種類とその意味を理解する	2前	40	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門専門課程 救急救命科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ショック・循環不全	ショック・循環不全の病態生理を理解した上で、症状、治療、重症度の判断を学ぶ。	2前	20	1	○			○		○		
○			救急症候・病態生理学Ⅰ	発熱、痙攣、めまい、頭痛などの症候や病態生理を理解し、観察、評価、処置に反映できる。	1前	20	1	○			○		○		
○			救急症候・病態生理学Ⅱ	意識障害や呼吸困難の症候や病態生理が理解でき、観察、評価、処置及び搬送ができるよう学習する。	1後	20	1	○			○			○	
○			救急症候・病態生理学Ⅲ	感覚麻痺、運動麻痺、胸痛、動悸、喀血、腰痛、腹痛、吐血、嘔吐、下痢、血尿の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置を系統的に習得する。	1通	60	2	○			○		○		
○			救急症候・病態生理学Ⅳ	腰痛の種類を知り、消化器系の主症状である腹痛・嘔吐・下痢について原因を理解し、疾病を考え、現場での配慮すべきことを学ぶ。	2前	16	1	○			○		○		
○			疾病救急医学Ⅰ	内分泌・代謝係疾患および神経系疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1後	50	2	○			○			○	
○			疾病救急医学Ⅱ	呼吸器および循環器の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1後	40	2	○			○			○	
○			疾病救急医学Ⅲ	消化器系疾患、泌尿生殖器疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1後	30	1	○			○			○	
○			疾病救急医学Ⅳ	泌尿生殖器疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1後	20	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門専門課程 救急救命科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			疾病救急医学Ⅴ	高齢化によって人体に起こる変化とそれによって生じる疾患について理解する。	2前	20	1	○			○		○		
○			疾病救急医学Ⅵ	救急救命士として、新生児を含む大人とはちがう小児の特性・生理的特徴を理解し、必要な救急疾患についての基礎的な知識を学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
○			外傷救急医学Ⅰ	外傷の定義、発生機序、身体各部の外傷の特徴とその取り扱い、出血と止血機構、創傷と感染・治癒機転などについて勉強します。	1後	30	1	○			○		○		
○			外傷救急医学Ⅱ	頭部外傷、頸部、脊椎、脊髄、胸部外傷の病態生理について理解し、適切な救急処置ができるように学習する。	1後	30	1	○			○		○		
○			外傷救急医学Ⅲ	腹部外傷、四肢外傷、多発外傷の病態生理について理解し、適切な救急処置ができるように学習する。	1後	30	1	○			○		○		
○			外傷救急医学Ⅳ	妊婦、小児、高齢者の外傷、またスポーツ外傷、熱傷、化学損傷、縊頸・絞頸、刺咬症の特徴、外傷に関連する特殊感染症について学習する。	2前	30	1	○			○		○		
○			環境障害・急性中毒	中毒物質による障害の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。	2前	30	1	○			○		○		
○			シミュレーション実習Ⅰ	救急現場における規律・安全管理を学習する。BLSヘルスケアプロバイダーに基づいた心肺蘇生法を適切に実施できる能力を学習する。	1通	90	1				○	○	○		
○			シミュレーション実習Ⅱ	救急救命士特定行為プロトコールに準じた救急救命処置を学習する。JPTECガイドラインに基づいた外傷時における適切な処置・判断を学習する。	1通	180	4				○	○	○	○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門専門課程 救急救命科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			シミュレーション実習Ⅲ	BLSO・NCPRに基づいた分娩介助(新生児蘇生)時における適切な処置・判断を学習する。 AMLSに基づいた内因性疾患時における適切な処置・判断を学習する。 PSLSに基づいた脳卒中時における適切な処置・判断を学習する。	2通	315	7			○	○		○	○	
○			シミュレーション実習Ⅳ	救急救命士による救急現場における適切な観察・処置・判断を総合的に学習する。 119番通報後から病院到着までの救急活動を総合的に学習する。 救急救命士国家試験(状況設定問題)を基盤とした実践的な救急活動を総合的に学習する。	2後	360	8			○	○		○	○	
○			臨床実習	第3次救急医療機関において、修得した知識を的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけるとともに、メディカルコントロールの重要性を確認し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。	2後	180	4			○	○			○	
合計				39科目		2217単位時間(68 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2年以上在学し、学則の授業科目を履修し科目試験及び卒業試験に合格	1学年の学期区分	2期
履修方法：定められたクラスで授業を受け履修する。	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。